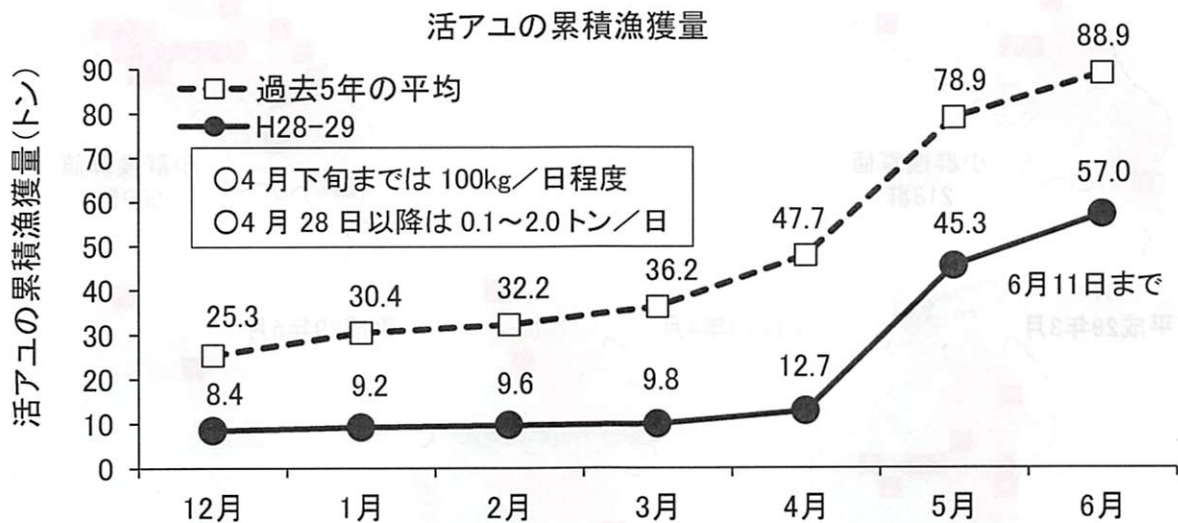


アユの漁獲・資源の状況について

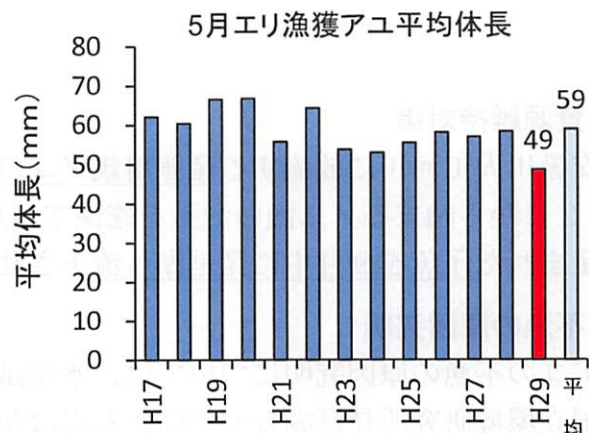
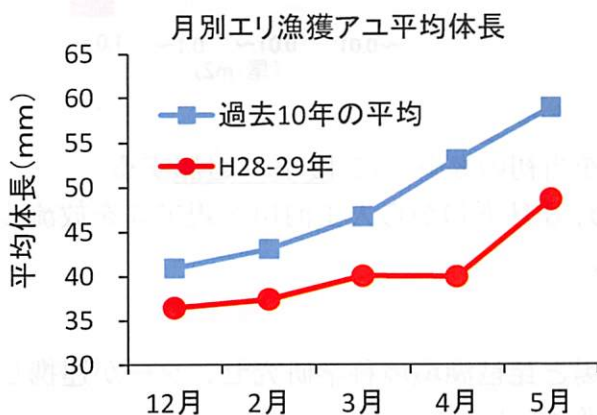
1. 漁獲の状況

- ・昨年 12 月に始まった活アユ漁は、4 月下旬から漁獲が伸び始めたものの、6 月 11 日現在の漁獲量は 57.0 トンと過去 5 年の平均の 64% となっている。
- ・これまでのアユ鮮魚の漁獲については、例年の 1/4 程度となっている。
- ・漁獲されたアユは、大型が活魚、小型が鮮魚として取引されている。
- ・漁獲は琵琶湖の南部で多かったが、5 月下旬以降、北部でも漁獲が伸び始めている。



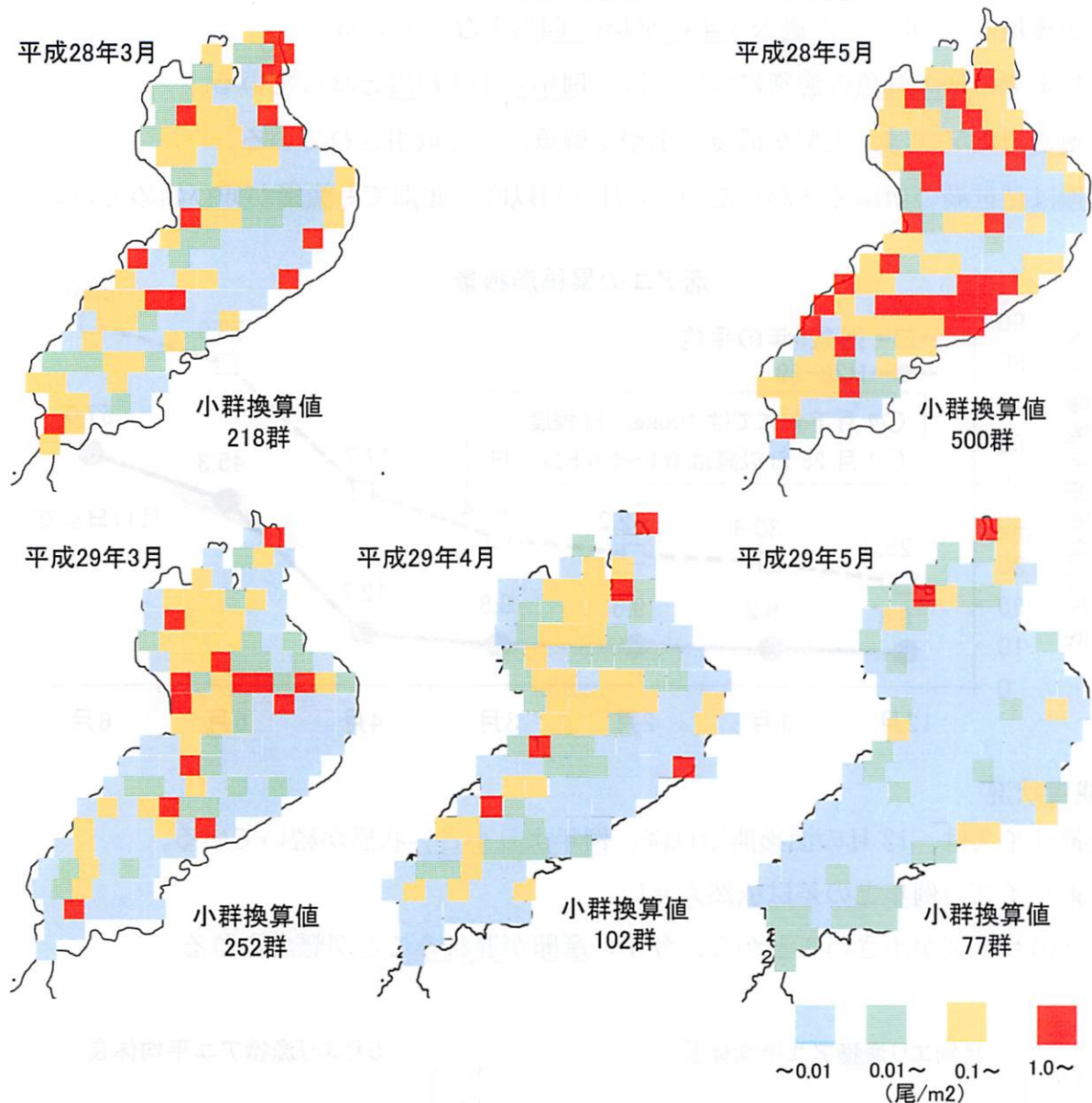
2. 成育状況

- ・漁獲サイズは、12 月の漁獲開始以降、例年より小さい状態が続いている。
- ・漁獲サイズの例年との差は依然大きい。
- ・アユのサイズが小さいことから、今年の産卵が遅れることが懸念される。



3. H29 年 1 月以降のアユの魚群数

- ・水深 30m ラインの魚群数は、1 月から 6 月まで 13 群～146 群で、これは平年比 2～20% と、極めて少ない状況で推移している（6 月調査結果は平年の 20%）。
- ・横断調査の魚群数は、3 月上旬は 252 群と昨年の 218 群より多く、アユが通常分布する水深 30m 以浅より深いところに分布していた。
- ・4 月は 102 群、5 月は 77 群に減少し、資源が減少している可能性がある。



4. 資源維持対策

- ・安曇川人工河川に放流する産卵用親アユの量を当初の 8 トンに 10 トン追加する。
- ・1 2 月から始まるアユ漁の漁獲を確保するため、8 月下旬から人工河川へ親アユを放流し、産まれた仔魚を 9 月中に琵琶湖へ流下させる。

5. 不漁の原因究明

- ・アユの不漁の原因究明については、水産試験場と琵琶湖環境科学研究センターが連携し、国立環境研究所琵琶湖分室の助言も得ながら進めている。